

都市名 アメリカ合衆国 グランドラピッズ市（以下 GR 市）

提携日 1986 年（昭和 61 年）8 月 4 日



位置

GR 市は、アメリカ合衆国ミシガン州にあり、五大湖の一つミシガン湖の東岸 40km に位置する内陸都市で、ケント郡庁の所在地でフォード元大統領の出身地でもある。

ミシガン州は、世界で最も大きい五大湖の内、四つの湖に囲まれており、水資源が豊かである。

ミシガン州一辺の全長は 734km、ミシガン湖の面積は 58,000 km²と琵琶湖の 86 倍もある。

GR 市の人口は 188,040 人（2010 年現在）、面積は 117.4 km²、人口密度は 1,626 人/km²となっている。

海拔は 200m で、気候は本市よりやや寒く、降雨量は少ない。

夏はやや短く、四季の織り成す自然の風景は色とりどりの木々に囲まれ、綺麗で静かな気持ちの良い街である。

産業

産業は、高級木製家具では全米一を占めている。主要産業としては、木製金属家具の他、多種にわたっているが、金属部品、自動車部品、家庭用雑貨製品が多く生産されている。

また、出版業も盛んで、石膏の採鉱と人造壁板の中心地でもある。

農産物としては、リンゴ・さくらんぼ・玉ねぎ・球根等も豊富で、ミシガン州西部地域の主要な卸売りの中心地でもある。

市内には、都市再開発事業で造られたミニ公園がいたるところにあり、緑にあふれた落ち着いたまちである。

歴史

この街の始まりは、グランド川の早瀬（ラピッズ）の先住民の村であった。これらの人々の大部分は、オタワからやってきた人々である。

19 世紀初頭、白人が先住民達から毛皮を買うようになり、1825 年にはパフティスト（キリスト教の一派）が伝道団を設立。1826 年には、貿易商ルイス・キャンプが越冬して（一緒に住む）、翌年通商居留地とした。第一次永住は、サミュエル・デクスターに率いられたニューヨークからの移民によって 1833 年になされた。1838 年に村は合併し、1850 年に自治都市ができた。

提携の経過

1975 年、当時八幡堀復元や街並保存など市民と共に多様なまちづくり活動に取り組んでいた近江八幡青年会議所が、姉妹都市クラブ提携の相手として選んだ。

GR 市は、当時の大統領フォード氏の出身地で、多くのアメリカ人から「ハートランド」と呼ばれていた。ハートランドとは「心のふるさと」という意味で、普通の町の、ごく普通の庶民の家から出た大統領を生み出したからである。

近江八幡市も小さな一地方で、日本人にとって「心のふるさと」ともいえる自然と歴史と文化が色濃く残っている。ハートランド「心のふるさと」が提携の基となっている。

1968 年 滋賀県とミシガン州が姉妹提携

1956 年 アメリカ大統領から米国民と他国民の交流を目的とした people to people 計画が出され、これを実施するために GR 市と本市が姉妹提携を行うことを GR 市委員会が採択し、本市が GR 市代表からメッセージを受けとる。

1984 年 GR 市長から親書を受け、滋賀県知事からも姉妹提携が行えるよう伝達を受ける。

1985 年 GR 市から 2 名の使節が来日。本市職員の派遣を約束する。

1986 年 本市から使節団 9 名を派遣し、8 月 GR 市にて提携の調印、本市でも調印式を行う。

都市名 アメリカ合衆国 レブンワース市（以下 LW 市）

提携日 1997 年（平成 9 年）2 月 1 日

位置

レブンワース市は、アメリカ合衆国のほぼ中央にあるカンザス州の北東部の都市で、ミズーリ川の沿岸に位置している。人口は、35,251 人（2010 年現在）で、面積は 41.5 km²となっている。

産業

産業は製粉と精肉が盛んで、他に家具、鉄鋼機械類も生産され、最近ではコンピュータのソフトウェアも生産されている。市内には、レブンワース砦、陸軍博物館、連邦刑務所、セント・メリー大学等がある。中でも、陸軍博物館には、開拓時代の先住民の民俗衣装などを保存している。

歴史

1827 年に西部開拓のために砦が建設された州最古のまちである。1855 年から 1885 年までの 30 年間に亘り、交易や産業が州で最も盛んな街であったことから「西部開拓史発祥の地」と呼ばれている。市の名前の由来は、19 世紀初頭の戦争時の将軍ヘンリー・レブンワースにちなんでいる。名誉市民第 1 号であるウィリアム・メレル・ヴォーリズ氏（日本名：一柳米来留）の生まれ故郷が LW 市である。ヴォーリズ氏は、1905 年に滋賀県立商業高校の英語教師として来日。1964 年に 83 歳の生涯を閉じるまで本市に住み、本市を拠点にキリスト教の伝道、出版、建築、医療、福祉、教育など幅広い活動を行い、大きな足跡を残した。ヴォーリズ氏が手がけた大丸大阪心齋橋店、神戸女学院、関西学院、同志社の各大学や山の上ホテル等数多くの建物は、名建築として高く評価されている。本市と LW 市との交流は、1993 年に財団法人近江兄弟社主催の「ヴォーリズの足跡を訪ねる北米旅考」の一行が、現存するヴォーリズ氏の生家を訪れたのがきっかけである。「北米旅考」が回を重ねて行われたことにより、LW 市において 6 歳まで在住したヴォーリズ氏への理解と評価が高まり 1996 年 5 月、LW 市理事会において「近江八幡市を姉妹都市として指名する決議」を議決するに至る。一方、本市では 1994 年秋に市制 40 周年記念事業として、シンポジウム「兄弟（ひと）をつくり都市（まち）をつくる」を開催。没後 30 年を経て名誉市民ヴォーリズ氏の様々な業績や人柄を改めて見直す気運が高まる中、1995 年の第 2 回シンポジウムには LW 市幹部らを招待。さらに 1996 年 9 月の定例市議会において「姉妹都市提携を求める決議」を全会一致で採択。提携を求める市長宛ての市民の署名も、7,000 人余りを数えた。

提携経過

1993 年（財）近江兄弟社「第 1 回ヴォーリズ北米旅考」実施（8 月 13 日～21 日）。ヴォーリズ生誕地 LW 市を訪問、生家在住のルドウィック氏との交流が始まる。

1994 年（財）近江兄弟社「第 2 回ヴォーリズ北米旅考」実施（5 月 27 日～6 月 4 日）11 月 15 日、近江八幡市・ヴォーリズ委員会が市制施行 40 周年記念事業として第 1 回ヴォーリズシンポジウム「兄弟（ひと）をつくり都市（まち）をつくる」を開催。米国総領事パブスト氏出席。

1995 年（財）近江兄弟社「第 3 回ヴォーリズ北米旅考」実施（4 月 28 日～5 月 7 日）市長からレブンワース・アダムス市長への親書伝達。10 月 29 日、近江八幡市ヴォーリズ委員会第 2 回ヴォーリズシンポジウム「建築に心をこめて」を開催。シンポジウムに LW 市ストレンジ・コミッショナー、商工会議所ディレクター・ハッチンバーグ氏を招待。

1996 年 5 月 14 日、LW 市理事会が「近江八幡市を姉妹都市として指名する決議」を議決（財）近江兄弟社「第 4 回ヴォーリズ北米旅考」実施（5 月 23 日～6 月 2 日）市長参加、LW 市において決議書を受理。9 月 27 日、近江八幡市議会が議会において「LW 市との姉妹都市提携を求める決議」を全会一致で議決。11 月 14 日～18 日ヴォーリズ生家に在住の LW 市幹部ルドウィック氏来幡。

1997 年 1 月 20 日、姉妹都市提携を求める要望書（市民の署名）が市長へ提出される。2 月 1 日、兄弟都市提携調印（提携名については、理想郷を築く目的を持って行動する仲間すべてを平等に兄弟と呼んだヴォーリズ氏の精神に基づいたもの。）調印後、ヴォーリズ委員会第 3 回ヴォーリズシンポジウム「精神は永遠に」を開催。シンポジウムに LW 市長、トンプソン副市長、ルドウィック氏を招待。

（財）近江兄弟社「第 5 回ヴォーリズ北米旅考」実施（5 月 23 日～5 月 31 日） 助役参加、LW 市において兄弟都市「調印式」。

都市名 大韓民国 密陽市

提携日 1994 年（平成 6 年）12 月 1 日

沿革

朝鮮高宗 32 年（1895 年） 密陽郡

1989 年 1 月 1 日 密陽市・郡分離

1995 年 1 月 1 日 密陽市（統合）

位置

密陽市は、大韓民国慶尚南道の東北部に位置する内陸都市で、釜山と大邱の中間地点にあり、釜山から西へ車で約 1 時間半、面積 799.01 km²、人口 110,458 人（45,479 世帯）（2009 年現在）の田園都市である。

面積は本市の約 10 倍、人口は約 1.4 倍を有している。京釜線鉄道が南北に貫通し、大都市との交通は大変便利で、また山紫水明の自然景観にも恵まれ、年間百万人以上の観光客が訪れ、四季折々の自然美は壮観で、伝統ある閑静なまちである。

産業

産業は農業が特に盛んで耕地面積 8,385ha（14,702 戸）を有し、豊かな耕地を利用した野菜農園を中心に、稲作の他ハウス栽培が盛んで、キュウリ・ミニトマト・エゴマ・紅色唐辛子等を栽培している。果樹特産品としては、中でもナツメが有名で、良質の糖分が豊富で、薬効も豊富であることから、お茶やドリンク類に年間を通じて加工供給されている。また、エゴマは四季を通じて新鮮な野菜の供給ができ、健康食品に多く利用し、輸出されている。

リンゴは果汁糖分が多く、甘さでは全国一の名産品になっている。

歴史

韓国と日本、特に本市との関係で重要なことは、「朝鮮人街道」が今なお現存していることで、街道は野洲町小篠原から彦根市鳥居本に至り、市内では中仙道から八幡旧市街地方面にバイパスのように分岐し入り組んでいる。

1592 年（文禄元年）豊臣秀吉の朝鮮出兵により、日本との国交が断絶したが、1607 年（慶長 12 年）徳川政権が、対馬の宗氏の尽力により国交を回復し、以来使節団が来日することになる。

道中にある本願寺八幡別院（金台寺）は、豊臣秀次が八幡に城下町を開いたとき、安土から移築された大寺院（浄土真宗）で、宗氏の案内で善隣の友好交流を掲げて来日した「朝鮮通信使」一行が往復途上に休息した。

更に「通信使宿割図」資料からも、京街道筋の町民あげてもてなし、出迎えを行っている。通信使一行は、慶長 12 年から文化 8 年の間に延べ 12 回来日し、長崎の対馬から江戸まで民俗楽器を吹き鳴らし行列。その当時の様子を知る絵巻物や屏風などの遺品や記録が多く残されている。その内 10 回、本市を通過、休憩している。

一方、密陽市においては、朝鮮王朝壬辰乱の時、国を救ったとされる義僧将「西山、泗溟騎虚」の三大禅師を祭った表忠寺が有名である。また博物館には、朝鮮通信使誕生の先駆的役割を果たした泗溟（松雲）大師の遺品約三百余点が保存されており、その中には 1604 年に同大師が講和正使として日本を訪れた時の様子を、緑色の絹地の布で描いた行列図（八曲屏風）が展示されている。その他天然記念物として「氷の谷」で有名である。

提携経過

1993 年 日韓親善協会湖東支部から交流紹介があり、相互の市長親書の交換及び市関係者の相互訪問が行われた（5 月）。

1994 年 本市から 11 名の使節団を派遣し、密陽郡庁にて調印式が行われ、同月本市においても密陽郡関係者を迎え、記念式典を行った（12 月）

都市名 イタリア共和国 マントヴァ市

提携日 2005 年 2 月

位置

マントヴァ市は、イタリア共和国北部ロンバルディア州にあり、北イタリアのガルダ湖から流れているミンチョ川がマントヴァの周辺で幅を広げ、町を取り囲む 3 つの湖（スペリオーレ湖、ディ・メッゾ湖、インフェリオレ湖）を形づくっている。ミラノから南へ車で約 1 時間半。

マントヴァ市の面積は約 64 k m² で、人口は約 5 万人。人口密度は 756 人/km²となっている。

産業

製造業は 19.9%（アパレル産業、ストッキング工業）で、産業は 17.8%（精油所、化学工業など）、農業は 11.9%（米、麦、チーズ加工、パルメザンチーズの一種）、サービス業は 14%、商業やホテルなどは 9.3%、テクノロジー産業、建設業、銀行、保険、融資などは残りの 27%。

マントヴァは風光明媚な観光地で、その産業で繁栄しつつある。

歴史

マントヴァは 5 世紀までローマ帝国の 1 つの町で、その後、異民族の侵入に悩まされた。

14 世紀からゴンザーガ家が支配する独立国家として栄え、15 世紀の終わりには、隣国のフェラーラ公国からイザベラ・デステを妃に迎え、以後マントヴァ公国は頂点を迎えた。

1627 年のナポレオン侵略により、公国は 1797 年までオーストリアに占領された後、1866 年にサヴォイア家による王政でイタリア王国となる。

1946 年にウンベルト 2 世が退位、サヴォイア家による王政が廃止され、イタリア共和国となった。

提携までの経緯

安土町とマントヴァ市は、16 世紀に天正遣欧使節が安土の町が描かれた屏風絵をローマ法王に献上するために、マントヴァ市を訪問したことに歴史的由来がある。平成元年 11 月にはマントヴァ市を含む海外 9 都市と国際文化交流提携を結び交流の推進を図ってきた。

またこの歴史的由来や、湖や自然などの環境的な共通点に基づき、姉妹都市提携に向けて互いに努力することを、平成 16 年 2 月に安土町長とマントヴァ市長が約束するなど、数年来の相互の交流を通じて友好関係を築き上げてきた。これらに基づいて両市町は、互いの友好関係を推進するために、姉妹都市提携を結ぶに至った。

提携経過

1987 年 4 月 天正少年使節が訪問した 36 都市（イタリア・スペイン・ポルトガル）へ文化交流再現の町長の手紙を送付。

ローマ・マントヴァなど 14 都市から賛同の返事

1988 年 10 月「安土町国際文化交流協会」発足

1989 年 8 月 同協会より平成少年使節をローマへ派遣。

11 月 使節団が渡欧し、文化交流再現について賛意を示した 14 都市を訪問。マントヴァ市を含む 9 都市と国際文化交流提携の協定を調印。

1996 年 11 月 ヨーロッパジャパンウィーク（イタリア・ヴェネチア開催）の展示部門に参加。

期間中にマントヴァ市をはじめとするイタリアの国際文化交流都市 5 都市を町長ほか表敬訪問。

2003 年 1 月にマントヴァ市長より交流再開の FAX。2 月 町長より交流再開承諾の手紙を送付。

2004 年 2 月 町長がマントヴァ市訪問。姉妹都市提携について合意。

2005 年 2 月 安土町にて姉妹都市交流調印式（マントヴァ市長来日）。